

## 愛玩動物による新たな外来種の侵入・拡散防止に関する 地域課題 WG の報告及び進め方

### 1. 平成 27 年度の検討を踏まえた取組の方向性

- ・平成 27 年度の WG で策定した「小笠原村における愛玩動物対策の基本的考え方」を元に議論を継続する。
- ・愛玩動物を飼養することを容認しつつも、外来種リスクを低減することを基本的な理念とする。(人とペットと野生動物の共生を目指す)
- ・当面の取組として以下の 3 点について具体的な検討を進める。
  - ①適正飼養に関する普及啓発の強化 (リスクや取組の必要性に関する理解を深める)
  - ②登録制をはじめとした新たな制度の導入に向けた課題を整理
  - ③遺産センターへの獣医師配置に向けて「人とペットと野生動物が共生する島づくり推進計画」(仮称) を策定

### 2. 平成 28 年度の検討体制

- ・当面、平成 27 年度に設置した愛玩動物 WG について、新規アドバイザーの招へいと、構成メンバーの位置づけの整理をおこなった上で、検討を継続する。

名称	愛玩動物による新たな外来種の侵入・拡散に関する地域課題ワーキンググループ
管理機関	環境省、林野庁、東京都、小笠原村(事務局)
関係団体	小笠原自然文化研究所、小笠原野生生物研究会、小笠原観光協会、母島観光協会、小笠原海運
アドバイザー	島しょ保健所小笠原出張所 獣医師 木村 哲子 島内開業獣医師 浅沼 博文 飼い主の会代表 宮川 空 東京都獣医師会 理事 中川 清志 神奈川大学法学部 准教授 諸坂 佐利

### 3. 第 1 回 WG (5 月 26 日開催) の概要

#### (1) 世界遺産センター・外来種対処室について

村より、外来種対処室の運営に関する調整状況を説明。

(主な意見)

- ・「愛玩動物による新たな外来種を出さない」ことを目的とした機能に重点を置くべき。
- ・母島についても同じ方針でカバーできるような運営の検討が必要。
- ・獣医師の配置による具体的な機能・意義の検討と村民への周知内容の整理が必要。

## (2) 人とペットと野生動物が共存して暮らせる島づくり推進計画案について

村より、外来種対処室の運営に当たっての資金面の裏付けとしての位置づけを備えた計画案の内容について説明。

(主な意見)

- ・補助金をもらうための推進計画づくりと条例・制度設計とは議論を分けた方がよい。
- ・「飼い主のいない猫対策」は、被害の「軽減」ではなく「根絶」を目指すべき。推進計画が目指すもの、達成されるべき状態を端的に記載してほしい。
- ・語尾に努力目標が多いと、達成すべき目標像が見えにくくなる。
- ・小笠原では「ペットを飼う」ことが無意識になされてはいけないという、小笠原の特殊性・固有性を前面に押し出すべきである。
- ・「小笠原におけるペットの適正飼養のあり方」を具体的にスタンダードとして明示し、そこから外れるケースがどのようなものかを示すのがよいのではないか。
- ・制度を作るとなれば、いつまでに何をするのか、早期にタイムスケジュールを示す必要がある。
- ・新たに島内に侵入する外来種に対する対策を階級別に考える必要がある。

## (3) ワーキングの進め方について

- ・対策の進捗が芳しくない。これまでの議論の繰り返しが目立つ。
- ・第三者のプロのファシリテーターを雇い、優先順位を決めてやるべきこと、会議で決めるべきことを明確にしてほしい。
- ・アドバイザーが作成した条例案をたたき台に議論をしながら修正していくという手順が効率的ではないか。
- ・制度設計のチームとリストづくりの2チームが互いに情報共有しながら進めていくのが良いのではないか。

## 4. 今後の進め方、スケジュール

- ・推進計画については、WGでの意見を踏まえ、事務局側で整理する。
- ・補助金申請や運営協議会の事業内容等はWGでの議論を踏まえつつ、別途、協議会立ち上げに向けた議論の中で精査していく。
- ・次回以降のWGでは、制度設計の叩き台をベースに、議論を進めることとする。

時期	WGの予定	その他
5月26日	・第1回WG：推進計画の検討	
6～7月		・補助金申請 ・協議会設立準備
8月(予定)	・第2回WG：制度・マネジメントの設計・検討	
11月(予定)	・第3回WG：平成29年度以降の体制検討他	